10月1日　ヤコブの手紙　2章1～9節

説教題：「みんな違ってみんな良い」

本日の聖書個所は、「差別してはいけない」という言葉が主題になっています。ただ、もはや私たちにとって「差別をしてはいけない」なんてことは、もはや聞き飽きたほどに当たり前の話であります。私たちは、共に歩む一人一人が尊厳ある存在として、人権ある存在として尊重すべき一人であることを知っています。ただ、そう考えることが出来るのは、私たちが神様から、イエス様から正しいことをすでに教えられているからであり、そうではない人々にとっては「弱い者を強い者が虐げる」のが当たり前でありました。いえ、この時代においても多くの人々が「弱肉強食」の原理を当たり前だと感じているのでしょう。

その問題について、今日の聖書個所では「あなたがたの集まりに、金の指輪をはめた立派な身なりの人が入って来、また、汚らしい服装の貧しい人も入って来るとします」と手紙の著者ヤコブは具体例を挙げながら話し始めます。金持ちが丁重に扱われ、貧しい者は粗雑に扱われる、そのようなことが実際に当時の教会の中で起きていたのでしょう。しかも、何度も起きていたからこそ、著者のヤコブはそのことを具体的に指摘しているのです。

ヤコブが怒りを感じているのは、この手紙を受け取った彼らの「貧しい人」に対する態度でありました。同じく会堂に来たお金持ちと同じ一人の人間でありながら、この貧しい人は教会で受け入れられることなく、むしろ侮辱されて傷つけられることとなりました。そのような差別的な行いは律法を守るユダヤ人の行いとしても、イエス様の言葉を守るキリスト者の行いとしてもふさわしくありません。むしろ神を冒瀆する者の行いである、とヤコブは怒りをあらわにしています。

私たちは、イエス様を主とあがめるただ一つの道によって、同じ神様の元に一つにされています。人種の隔て、立場の違い、性別から社会的な階層に至るまで、そのすべての違いを、「どうでもいい」ものとし、バラバラであった私たちを一つの教会としてくれたのが、私たちの主であるイエス様なのです。それは、私たちが誰かを軽んじるためではなく、また私たちが軽んじられるためでもありません。すべての人々が神様によって愛を注がれていることを知って相手に愛を注ぎ、相手のことを神様が愛している隣人と理解しながら接するために、神様は私たちの間の壁を取り去ったのです。だからこそ、私たちは互いの違いをもって差別をするのではなく、互いの違いを「神様が良いと言ったもの」として尊重をしながら、これからも歩みを続けていくことが出来るのです。

今日は世界聖餐日の礼拝です。世界のすべてのキリスト教の教会が、人種も性別も、身分も教派も越えて等しく聖餐に与る日であります。神様によって一つに結ばれている、私たち江刺教会が神様と一つとなり、私たち江刺教会が世界中の教会と一つになることが出来る、その喜びを胸に、今週一週間の、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：ヤコブの手紙　2章1～9節

・1:わたしの兄弟たち、栄光に満ちた、わたしたちの主イエス・キリストを信じながら、人を分け隔てしてはなりません。あなたがたの集まりに、金の指輪をはめた立派な身なりの人が入って来、また、汚らしい服装の貧しい人も入って来るとします。その立派な身なりの人に特別に目を留めて、「あなたは、こちらの席にお掛けください」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこに立っているか、わたしの足もとに座るかしていなさい」と言うなら、あなたがたは、自分たちの中で差別をし、誤った考えに基づいて判断を下したことになるのではありませんか。わたしの愛する兄弟たち、よく聞きなさい。神は世の貧しい人たちをあえて選んで、信仰に富ませ、御自身を愛する者に約束された国を、受け継ぐ者となさったではありませんか。だが、あなたがたは、貧しい人を辱めた。富んでいる者たちこそ、あなたがたをひどい目に遭わせ、裁判所へ引っ張って行くではありませんか。また彼らこそ、あなたがたに与えられたあの尊い名を、冒瀆しているではないですか。もしあなたがたが、聖書に従って、「隣人を自分のように愛しなさい」という最も尊い律法を実行しているのなら、それは結構なことです。しかし、人を分け隔てするなら、あなたがたは罪を犯すことになり、律法によって違犯者と断定されます。